

早生・4倍体 イタリアンライグラス



普通播き～
遅播きで多収

きららワセ

発売以来、各地で栽培が増加中です。

初期生育のこの差が
「きららワセ」です



左：既存品種A、右：きららワセ

イタリアンライグラスの給与でタンパク質補給を

気になるギモンにお答えします！

この初期生育がスゴイ!!
こんなイタリアンが欲しかった！

Q1 収量は？

4倍体なので、葉幅が広く、葉が長く、茎径はやや大柄なので、多収です。(注：乾物収量は高く、乾物率はやや低いです)

Q2 多収でも倒れない？

茎は ガッチリタイプの草姿。耐倒伏性は、他の4倍体品種と比べて「強」、他の2倍体と比べて「やや強」です。

Q3 播き遅れても大丈夫？

初期生育が旺盛な上、低温伸長性に優れるので、播種期が遅れても多収です。また、葉幅が広く早く地面を覆うので、雑草の発生を抑えます。大きなメリットです。

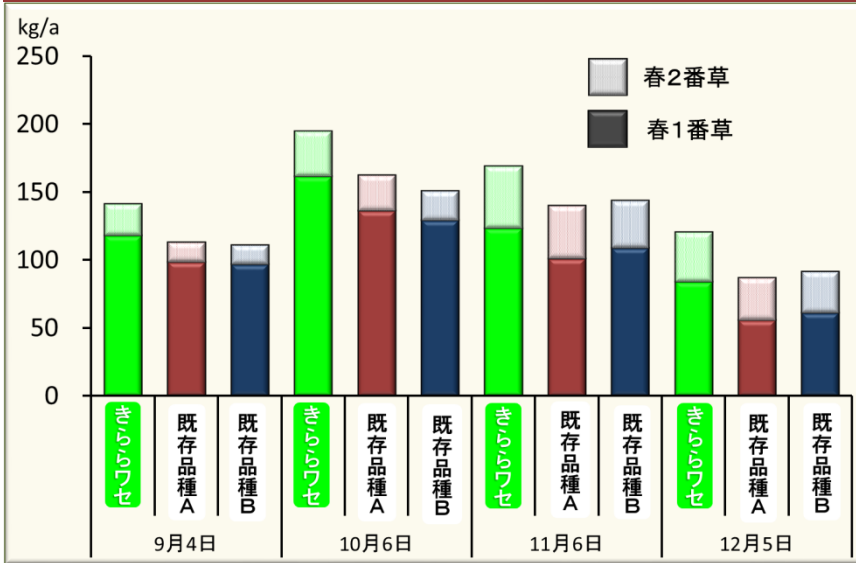
Q4 病気は大丈夫？

早生品種で、いもち病抵抗性(「中」)を持ち、冠さび病抵抗性は「強」です。★早播きはいもち病抵抗性の「はやまき18」を。

試験場における試験成績は、裏面に記載しました。ぜひ、特性をご覧ください。

出穂期は4月中旬で、早生より若干出穂が遅い「早生の晩」です。

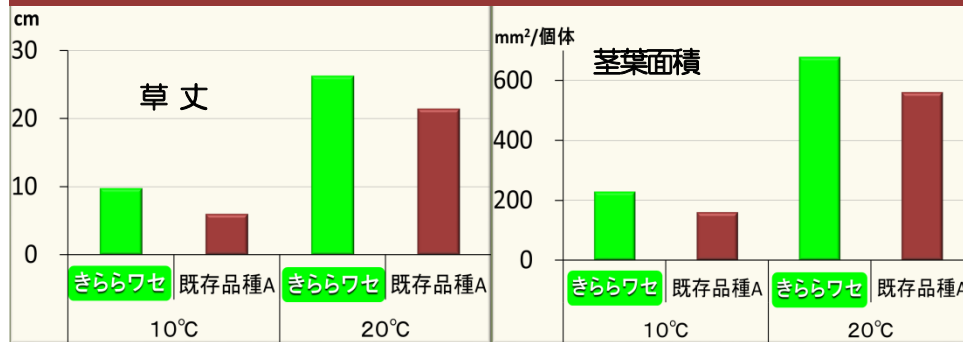
★ 播種期別の収量性 (乾物) (山口農試：2006年)



○イタリアンライグラスの早生品種は一般的に2倍体ですが、4倍体は、稈長、葉長が長く葉幅が広い大柄な草姿となるので、多収です。(乾物収量は高く、乾物率は2倍体品種よりやや低いです。)

○育成地における9月播きから12月播きまでの乾物収量はいずれも「既存品種A」、「既存品種B」より多収となり、播種適期の幅が極めて広いことが特徴です。

★ 低温生長性 (山口農試：2007年)



○初期生育が旺盛で、低温生長性に優れるので、播種期が12月にずれ込んでも安定した収量が得られます。

○転換畑の晩播きで多発する強害雑草に対する抑制効果が高いので、雑草の繁茂により減収しにくくなります。

★ 倒伏程度 (全国12試験箇所：3か年平均)

品種名	標準播平均	晩播平均	多発頻度	総合判定
きららワセ	3.8	3.4	13	やや強
既存品種A	5.4	4.8	40	弱
既存品種B	3.1	2.6	13	強

○耐倒伏性は“やや強”です。

○草姿もやや直立型で、刈り取りロスを最小限に抑えます。

注) 倒伏程度：1(無)～9(甚)。多発頻度：多発場所の割合(%)

★ 冠さび罹病性程度と抵抗性 (宮崎畜試：特検)

品種名	多発葉平均	株毎の平均	総合判定
きららワセ	26	2.7	強
既存品種A	67	5.5	極弱
既存品種B	62	5.1	極弱

○冠さび病には“強”、いもち病には“中”の抵抗性を備えています。

○これらの病害は高温期に多発するため、地球温暖化にも対応してます。

注) 罹病程度：多発葉平均は1(無)～100(甚)。株は1(無)～9(甚)。

○栽培適地：東北南部～九州・沖縄までの地域。ただし、積雪地帯は除く。

○播種量：普通播きは 2～3kg/10a
 晩播きは 3～4kg/10a
 [★早播きは ⇒ いもち病に強い「はやまき18」が最適。
 ★積雪地帯は ⇒ 積雪に強い「ナガハヒカリ」が最適。]

○栽培上の留意点：苗立枯れ症には強くないので、一般平地での8月の早播きは避けてください。

【育成機関】 問い合わせ先：山口県農林総合技術センター畜産技術部
 放牧環境研究室 飼料・環境グループ TEL:0837-52-0258

播種後の鎮圧は発芽定着に影響します。十分に行いましょう。